

令和7年5月19日(月)、男女共同参画推進室では、令和7年度「ロールモデル講演会①」を開催しました。学生・教職員あわせて145名が参加しました。

講師には、4月30日まで高知大学医学部で教鞭を執られていた藤井千江美先生をお招きし、「興味・関心があることに、まずは第一歩を踏み出す勇気を！」をテーマに、ご自身のキャリアの道のりを辿りながらご講演いただきました。

講演会に先立ち、藤井先生への質問を募ったところ、50件を超えるメッセージが寄せられました。講演では、これらの質問にも丁寧にお答えいただきながら、ドキドキ、ワクワクするようなストーリーが展開されました。

藤井先生は、スイスや南アフリカで旅行会社に勤務されていた経験をお持ちで、その過程で「アフリカの医療に携わりたい」という思いを抱き、40歳で看護師の道を志されました。その後、大学病院での勤務や、熱帯医学を学ぶためのイギリス留学を経て、JICAシニア海外ボランティアとしてボツワナでエイズ対策活動に従事。さらに、JICA専門家としてシエラレオネにおける保健行政にも携わりました。輝いて見えるキャリアの裏には、さまざまな困難や試練があったことも、前向きな言葉で率直に語ってくださいました。

活動の中では、現地の人々とともに「自分たち自身の手で、より健康で豊かな生活を築く方法」を模索され、モリンガというスーパーフードの導入にも取り組まれました。現在では、その多くの活動が現地の人々の手によって継続的に運営されているそうです。

印象的だったのは、「村の診療所の中を走り回る鶏」のエピソードです。「自分が生まれ育った社会で“当たり前”だと思っていることを、外国人である自分が“正論”としてぶつけても、反発を招くのは当然のこと。相手自身が考え、理解し、“これは衛生上よくないよね”と納得しない限り、行動は変わらない。押し付けになってしまうだけです」と語られ、会場の参加者は皆、深く頷いていました。

この「鶏のエピソード」は、男女共同参画に関するセミナーやイベントにも通じるものがあります。相手の立場や背景に寄り添い、共に考える姿勢の大切さを改めて感じさせられるお話でした。(廣瀬)



# 令和7年度 ロールモデル講演会

## 興味・関心があることに、 まずは一歩踏み出す勇気を！

男女共同参画推進室では、次世代のキャリア支援の一環として、ロールモデル講演会を実施しています。

JICAの仕事終了後、国際協力・国際看護学を教えながら、研究活動に加え、ブルキナファソとシエラレオネでモリングを活かした地域産業作りと栄養改善に取り組んできた藤井先生に「一歩踏み出す勇気」についてお話しいただきます。

日時 令和7年5月19日（月）14:50～16:20

会場 共通教育棟 212番教室

講師 藤井 千江美 氏

早稲田大学中退後、国内およびスイス・南アフリカで旅行会社に勤務。40歳で看護師となり、三重大学医学部附属病院勤務を経て、イギリスで熱帯医学を修学。JICAシニア海外ボランティアとしてボツワナでエイズ対策に従事後、保健専門家としてシエラレオネで保健行政強化プロジェクトに3年間携わる。帰国後、大阪大学大学院で国際協力を学びつつ、ブルキナファソでモリングを活用した地域産業づくりに尽力。2019年以降はNPO法人HANDSのもと、シエラレオネにて子どもの栄養改善に取り組んでいる。

対象 本学の学生・教職員、一般（申し込み不要）



お問い合わせ：男女共同参画推進室  
高知大学男女共同参画推進室  
しあわせぶんとん（担当：廣瀬、吉村）  
〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号  
国立大学法人 高知大学 地域協働学部棟3階

